

七面鳥の上顎と舌

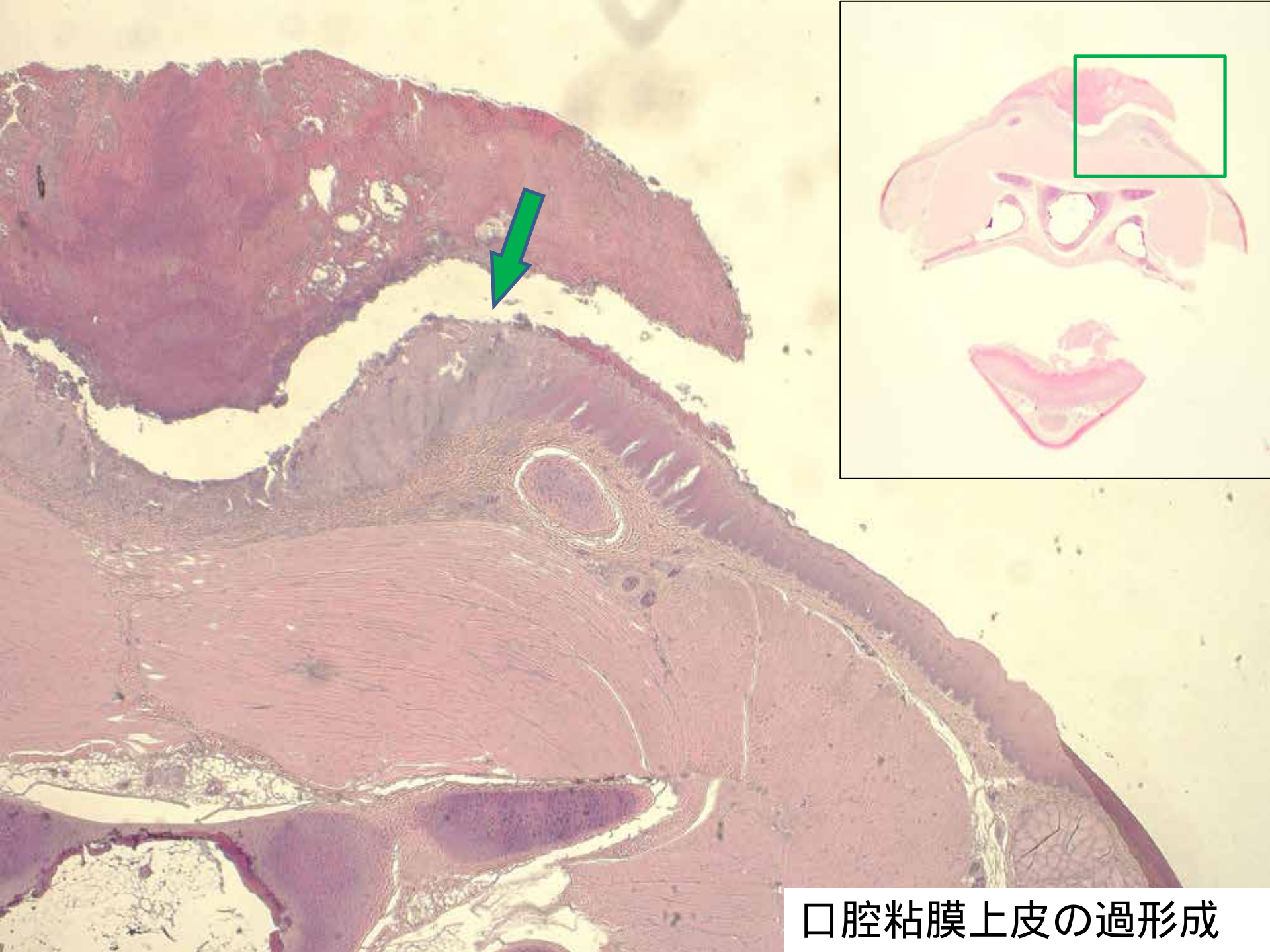
提出機関：モンタナ獣医診断研究所

症例：成鳥、雌、野生、七面鳥

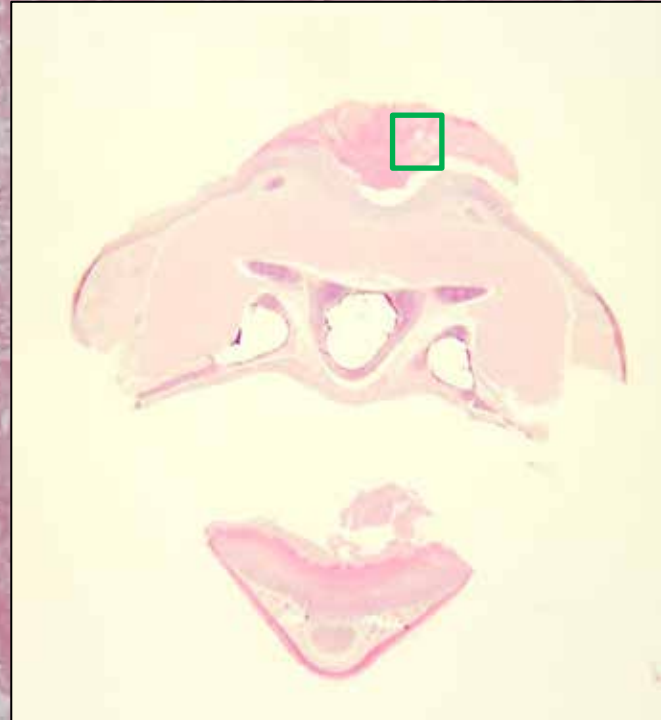
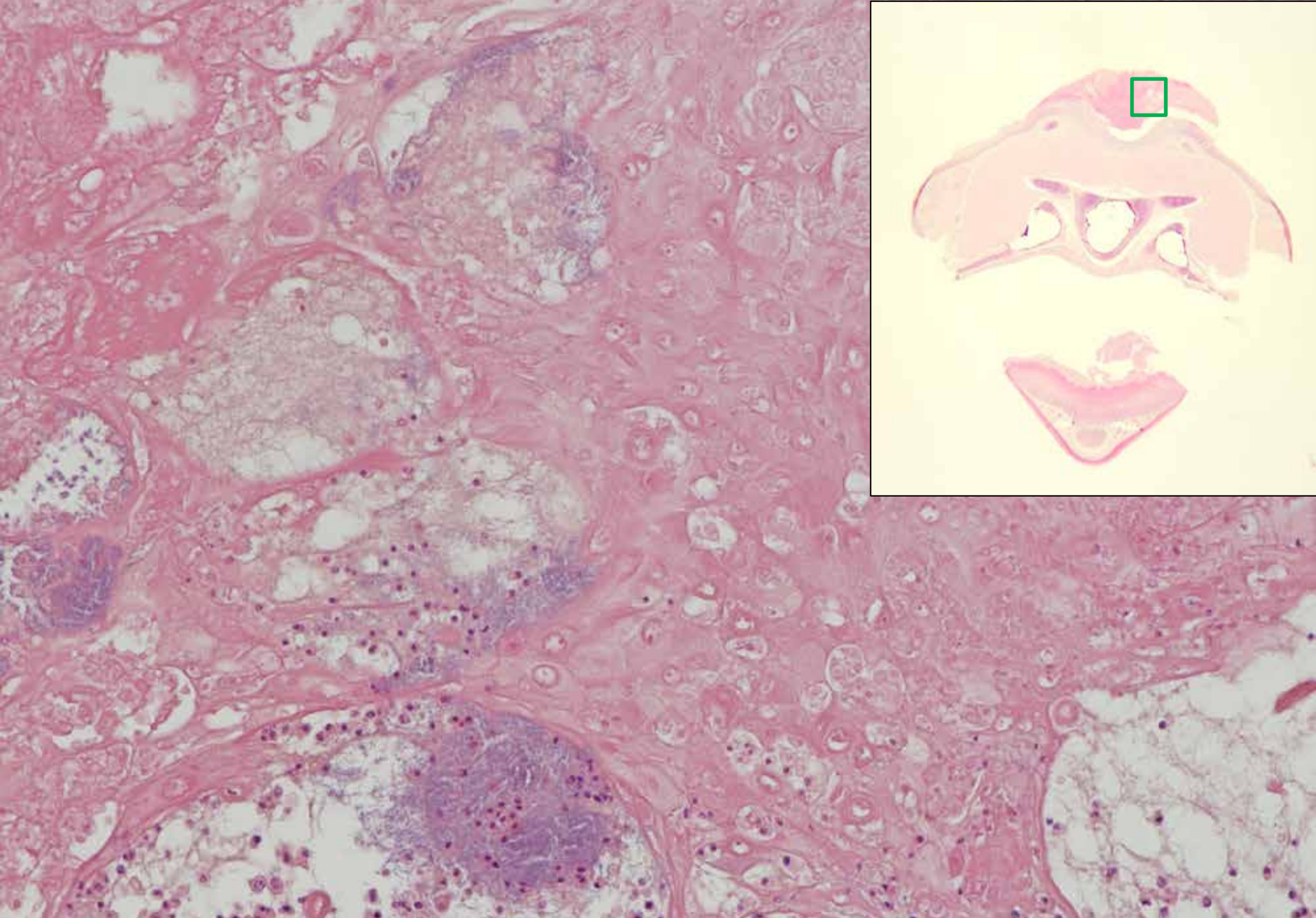
病歴：七面鳥の一群内の数羽が、止まり木からの滑落、旋回運動等の臨床症状を示した。数は不明だが斃死例もあった。

肉眼所見：罹患動物の口腔において、広範囲に正常粘膜を置換するように、結節腫瘤が多数みられた。腫瘤は様々な大きさで、不整形で、多発巣状から融合性、増殖性、黄褐色から淡緑黄色、乾酪性であり、腫瘤表面は壊死産物や線維素に覆われていた。

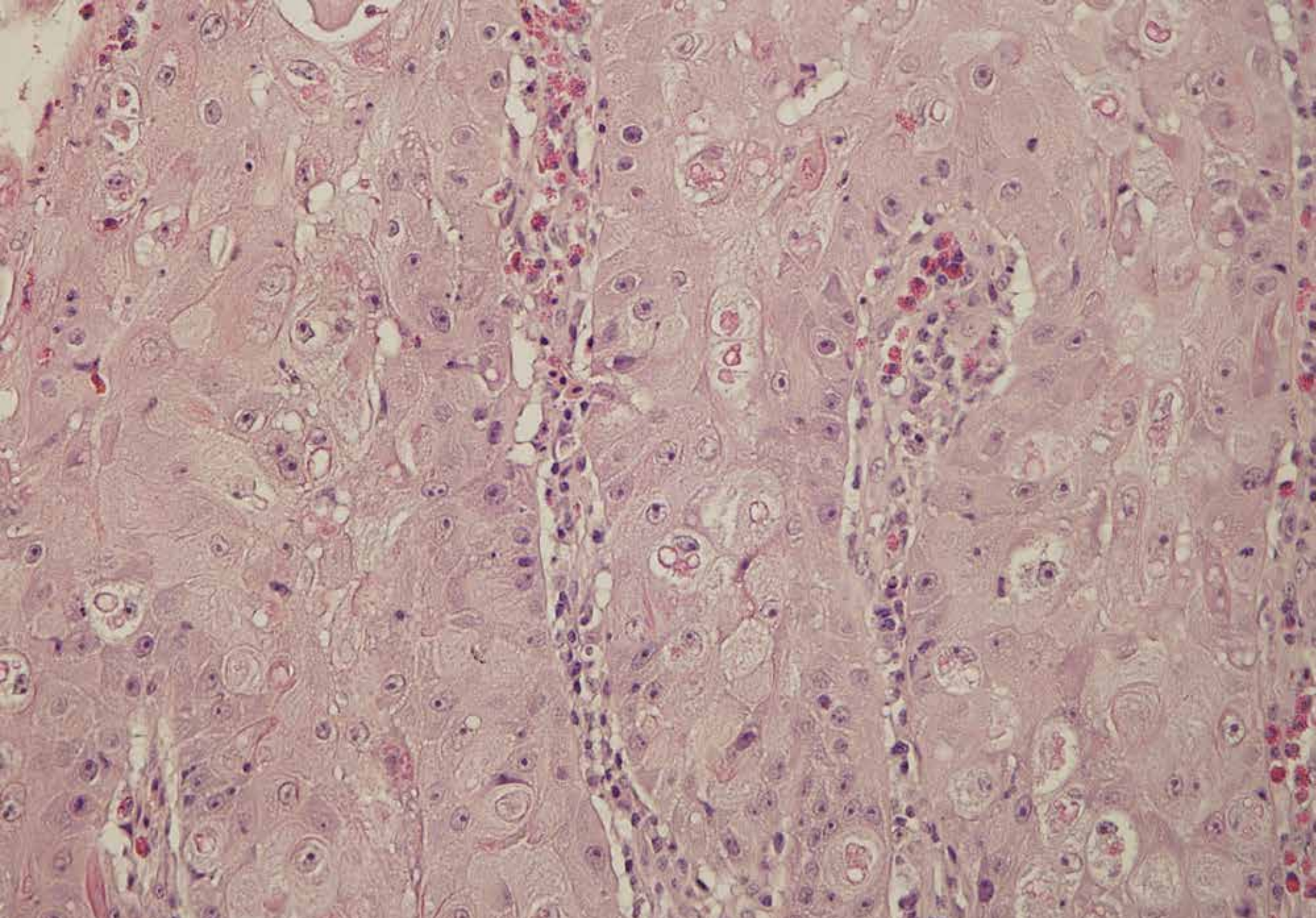




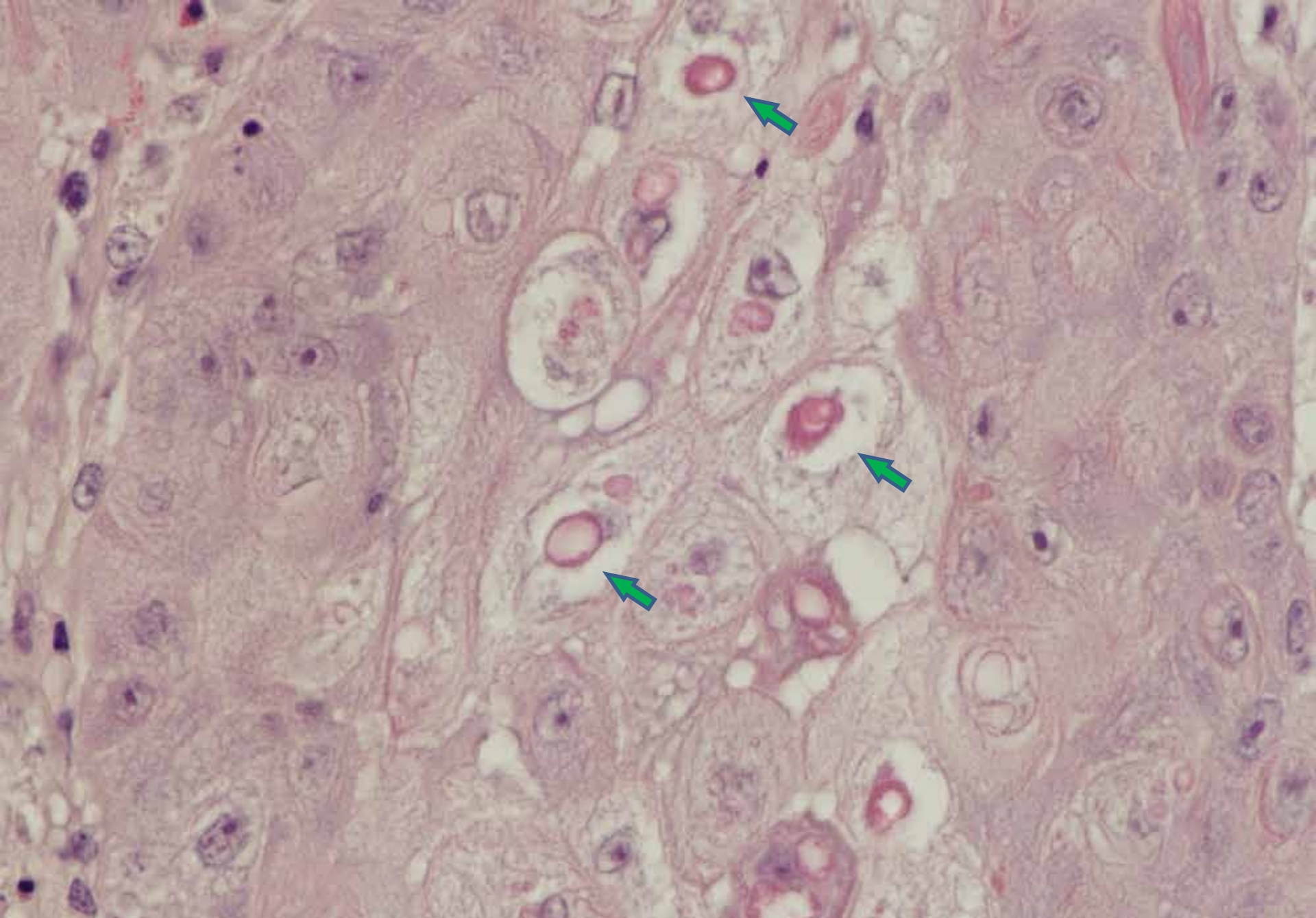
口腔粘膜上皮の過形成



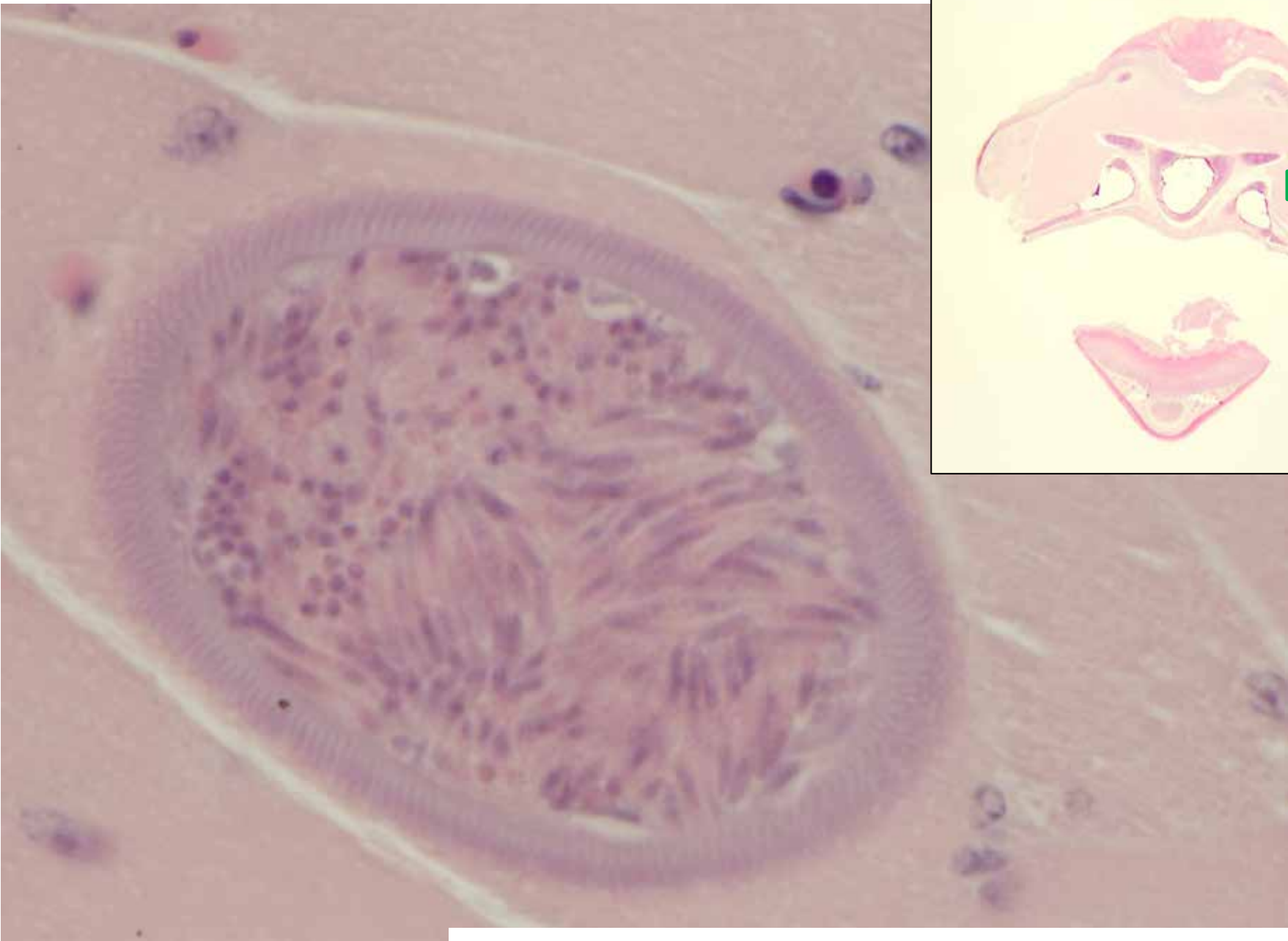
壊死産物、血液、細胞屑、細菌塊が混じる頽廃物



上皮細胞の過形成、粘膜下組織への偽好酸球の浸潤



上皮細胞の風船状変性、好酸性細胞質内封入体(矢印)



深部骨格筋の筋形質内にみられた原虫シスト

● 提出者の診断

口腔：重度、多発巣状から局所広範性、過形成性、偽好酸球性、組織球性、壊死性びらん性口炎。上皮細胞の風船状変性と細胞質内封入体を伴う。病因－禽痘ウイルスに合致。

Oral cavity: Severe, multifocal to locally extensive, hyperplastic, necrotizing and erosive stomatitis, heterophilic and histiocytic, with epithelial ballooning degeneration and intracytoplasmic inclusion bodies, etiology consistent with avian poxvirus.

● JPCの診断

口腔：著明な、多発巣状、壊死性増殖性口炎。風船状変性及び好酸性細胞質内ウイルス性封入体を伴う。

Oral cavity: Stomatitis, necrotizing and proliferative, multifocal, marked, with ballooning degeneration and eosinophilic intracytoplasmic viral inclusion bodies.

- 提出者のコメント

鳥のポックス感染症は典型的な肉眼及び組織所見を示す。温暖で湿潤な気候の地域で発生が多い。感染動物から機械的ベクターである昆虫または直接接触により伝播する。

臨床症状から、皮膚に多発巣状の結節または増殖性の病変を形成する皮膚型、口腔から上部気道に壊死性病変を形成するジフテリア型に区分され、ジフテリア型は時に致死性の疾患になる。

トリポックスウイルスは大きさ250～350nmの楕円形で、二本鎖DNAウイルス。細胞質で増殖し、細胞障害作用があり、特徴的な好酸性封入体(ボリンゲル小体)を形成する。

トリポックスウイルス属は種特異性が高く、七面鳥痘ウイルスにより七面鳥に臨床症状を起こすと考えられてきた。しかし、近年、七面鳥への鶏痘ウイルス感染が密接に関係するとの報告があり、種特異性の範囲への疑問と、鶏痘または近縁ウイルスの感染が関与する可能性が示唆された。

- 会議のコメント

ポックスウイルス科は皮膚または全身上皮の親和性が高く、表皮成長因子様物産生による表皮の過形成、風船状変性、水疱を引き起こす。また、血管損傷と表皮過形成により虚血性壊死とそれに続く皮膚及び粘膜下組織の変性病巣を引き起こす。水疱は膿疱となり、破裂後“ポック”となり癒痕化する。粘膜では膿疱よりむしろ潰瘍となる。